



【持続的に祈れる秘訣】

聖書:使徒の働き1章14節/ 暗唱聖句:マタイの福音書18章19-20節

説教者:鄭南哲牧師
(Rev. Jung nam-chul)

愛するクリスチャンプレイズチャーチのみなさん！一週間も主の平安の中でお元気でしたか。気になるのは奥まった部屋に集まった人々は毎晩、毎日何をしたのかです。私とみなさんがよくご存知のように彼らは心を一つにしてひたすら祈りに専念しました。イエス様の弟子たちを含め120人の信徒たちをみてみてください。十日間持続的に心を合わせて祈られたのではありませんか。この十日という時間はもともと定まった時間ではありませんでした。いつ祈りを終わらせたらいいのか決まりがありませんでした。十日後に聖霊の降臨（こうりん）があったため、祈りを終わらせただけで、もしその日聖霊が臨在されなかったら、彼らはもっと長く祈る続けられたでしょう。つまり、彼らは持続に祈る中で、神様の導きによって聖霊に満たされたのではありませんか。みなさんはどうでしょうか。先週一週間祈り続けてきてますか。毎日祈るための時間を取れたでしょうか。毎日10分祈る人にとって15分間もっと長く祈ることも簡単ではないと思いますが、毎日持続的に祈ることも決して簡単ではありません。大切なのはどうすれば、彼らのように我々も何かの課題を置いて継続して祈れるかです。

<1.約束をつかんだ祈りこそが持続的に祈るようにしてくれます。>

その一つは神様の約束とつながった祈りだったからです。神様から言われた御言葉をつかんで祈ると力があります。奥まった部屋に集まった120人はひたすら祈ることができました。なぜでしょうか。

“父の約束を待ちなさい。”（4節以下）

イエス様は父なる神様が約束された聖霊を送ってくださいと言われました。弟子たちはこの約束の言葉をつかんでいたため続けて祈ることができました。具体的な約束をつかまなければ、我々はしばらくしたらあきらめてしまいがちです。祈りが絶たれてしまいます。我々は大体個人の必要だけを考えながら祈るときが多いです。それでもいいです。しかし、その祈りが中断されず続けさせるためには、答えられるまであきらめないで祈るためには、**まず自分の必要と聖書にある約束の御言葉を一致させる作業をしなければなりません。**たとえば、不景気のため夫が仕事を失ったと考えて見ましょう。夫が一ヶ月休むときは、まあまあ大丈夫ことが、二ヶ月、三ヶ月時間が経てば経つほど不安になるでしょう。悩むばかりで食欲もなくなり、体も弱まり、眠ることすらできなくなります。その時、自分も知らないうちに祈るようになります。妻は夫の職場のために、日用の糧のために祈り始めます。家族を助けてくださるようにと神様に頼ります。しかし、この祈りがもっと力強く、答えられるまで持続されるためには自分の必要に対する神様の約束は何であるかを聖書から探すのです。

この場合マタイの福音書6章でこの約束の御言葉を取ることができるでしょう。31-34節に、“そういうわけだから、何を食べるか、何を飲むか、何を着るか、などと言って心配するのはやめなさい。こういうものはみな、異邦人が切に求めているものなのです。しかし、あなたがたの天の父は、それがみなあなたがたに必要であることを知っておられます。だから、神の国とその義とをまず第一に求めなさい。そうすれば、それに加えて、これらのものはすべて与えられます。だから、あすのための心配は無用です。あすのことはあす心配します。労苦はその日その日に、十分あります。”

この神様の約束を見つかったなら、こう祈れるます。“全能の父なる神様。あなたにはすべてを知っておられおできになるお方です。今愛する夫に新しい職場が必要である事をあなた様をご存知ですから、まず、我々が心配することをやめます。心配することで何にも変えることができないし、私たちより神様がよりふさわしく最善の道に導いて下さることを信じますから先のことは心配しません。何よりも願わくはこの問題を通してどうかさらにあなたのご栄光のため、主のお働きのため、時間でお金で以前よりもっと仕えることができる夫と、内の家庭となりますように助け用いて下さい。”と。

神様が確かにそのように約束されたので、この約束の言葉を握って夫の問題のために祈ります。家族の問題のために祈ります。“つまり、神様の約束と自分の必要が一致される祈りをささげなければなりません。その祈りこそが最後まで疑わずに、揺らがないでささげられるのです。

愛する信仰の家族のみなさん！ですから、我々は持続的に祈ろうとするのであれば、かならず、神様の御言葉を勤勉に探さなければなりません。聖書にどんな約束があるのか探らなければなりません。そして、その約束の御言葉をつかまなければなりません。神様の約束の言葉をもとに心から祈るときこそ、神様の約束がかなえられるまで我々は祈れるし、祈りが答えられる恵みを味わうことができます。

奥まった部屋に集まった弟子たちは漠然とした祈りではありませんでした。主の約束、聖霊を与えてくださるといふ約束をつかんで祈り続けることができました。愛する信仰の家族のみなさん！しばらく自分の祈りを振り返ってみましょう。御言葉を通して神様からどんな約束をいただいて祈っているのか。聖書を読まずに祈る人はある意味では病人のようです。盲目的な人のようです。聖書を読むのが苦手で、聖書を学ばず、ひたすら熱心に目を閉じて祈ろうとする人は神様の御心とは関係なく自分の願いどおりになりますようにと訴える我がままのような間違っただけの祈りと同じだと思います。結局、聖書の御言葉はないがしろにして、日々、自分の必要だけを要求するため、試みに陥ったり、霊的にも神秘主義のようになって霊的な病にかかってしまうのです。

祈りというのをただ、神様に求め、お願いすることだと知っているのは、祈りについて半分しか分かってないことです。むしろ祈りというのは神様の御声を聞く時間です。不完全な自分の意思の変わりに完全なる神様の御心を求め、自分の計画を申し上げるが、結局祈りを通して神様の約束と靈感を求めるところこそがまことの祈りです。そういうわけですから、私たちが祈り

続けられるためには約束のある神様の御言葉がかならず必要です。

神様の約束が含んだ聖書の御言葉と祈りは絶対離してはいけないことである事を忘れないで下さい。いままで持続的に祈れず、いつも途中で祈りが切れてしまった大体の原因は、御言葉による神様の約束をつかもうとしないで、ただ、自分の意志と力だけで、自分の願いだけを唱えるような祈り方ではないかと思えます。それだと当然、祈り続ける力もなくなり、継続することすらできなくなるのです。

今日から、もう一度持続的に祈り求めたいと願う方は神様の約束の御言葉をくださるようにと祈って、まず聖書を開きましょう。そして、ひたすら、自分の求めている課題への神様の約束の御言葉を捜し求め、それをつかんで祈りましょう。そのとき、ようやく神様の約束に基づいた祈りが力をいただいて、強くなり、祈り続けることができることをもう一度胸に刻んで、実践できるみなさんとなりますように祝福します。

<2.心を合わせてささげる祈りこそ持続的に祈るようにしてくれます。>

祈りを持続させるには心をつ一つにして祈ることで、一人で祈ることより一緒に祈ることがもっと有益です。さきにたとえて申し上げた夫の失職（しっしょく）の課題をみましょうか。このような課題をもって祈る時、もし、夫がまだ信じてない方だとしても奥さんである方々はぜひ夫と一緒に祈ってみて下さい。妻より職を失った夫こそが意気消沈（いきしょうちん）されていると思います。家庭では以前より大声で威張ることすらできないかも知れません。その時、夫にこう提案して見ませんか。“あなたは今まで家族のため精一杯働いて来たわ。人ができる事全部やって来ているのだから、もう私と一緒に神様に望みを祈って見ない。人にできないことが神様にはできるかも。あなたのために、仕事のため私が祈るから心だけ合わせて下さいね。”そして、妻の方から手を出して夫の手をつないで祈ってみて下さい。もちろんいやがるご主人もいると思いますが。。確かに心を合わせた祈るは力があります。

世界的に癒しの賜物をもって働いている有名なアメリカのキャサリンクールマンさんは(Catherine Cullmann)病にかかっている人々のために祈るときこう言いました。“祈ることはまるで焚き火を焚くようなものです。焚き火を起こすとき、木の枝一本を置いて起こすよりたくさん木の枝を集めておいて焚くともっと燃え上がるように祈ることも一人で祈るより何人かが一緒に集まって祈るときもっと大きい力が現されるので、私一人でこの人たちのやまいのために祈るよりみんなが心を合わせて一緒に祈るときこそ神様の御業は早く、力強く表されます。ですから、私がここで祈るとき、みなさんも心から私とともに祈り、アーメンで参加して下さい。”このように言うてから、病気の人の頭に手を置いて安手し、祈った後、なんと起き上がる奇跡が起こるのです。これは心を合わせて祈るその祈りの力とはどんなにすばらしいのかをよく表せてくれます。

一人でも祈れるでしょう。しかし、しかし、祈り続けるためには心合わせて共に祈らなければなりません。出エジプト記17章8-16節を読んで見ますと、イスラエルの民たちも荒野の旅の中でアマレクという戦士部族から攻められ、戦いの時、神の人モーセが選んだ方法は祈れるある丘に登って神様に手を上げて切に祈ってました。しかし、祈りためモーセは一人ではなく、アロンとフル二人も連れて上りました。なぜでしょう。神様が完全に勝利を与えて下さるまで祈り続けるためでした。モーセも祈る者でした。しかし、祈り続けるためには共に祈る人たちが必要なのです。そして共に心合わせて祈る時、さらに強力な祈りとなり、神様がその祈りに強く答えて下さいます。

なのでマタイの福音書18章19-20節にはこう書いてあります。“まことに、あなたがたにもう一度、告げます。もし、あなたがたのうちふたりが、どんな事でも、地上で心をつ一つにして祈るなら、天におられるわたしの父は、それをかなえてくださいます。ふたりでも三人でも、わたしの名において集まる所には、わたしもその中にいるからです。”

ヤコブの手紙5章14-16節では“あなたがたのうちに病気の人がありますか。その人は教会の長老たちを招き、主の御名によって、オリーブ油を塗って祈ってもらいなさい。信仰による祈りは、病む人を回復させます。主はその人を立たせてくださいます。また、もしその人が罪を犯していたなら、その罪は赦されます。ですから、あなたがたは、互いに罪を言い表わし、互いのために祈りなさい。いやされるためです。

義人の祈りは働くと、大きな力があります。”を見ると、教会の長老や、信仰の先輩や信仰の家族に祈るをお願いするようにと書かれています。お互いのために祈り、罪を言い表し、祈るようにと命じられました。

聖書は心を合わせた祈りを強調します。夫と一緒に祈ってみて下さい。夫に信仰がなくても大丈夫です。“私と手をつないで一緒に祈ってみよう。私が祈るから、あなたは目を閉じて心からこの祈りを聞いて下さい。そして、心が動かされればあなたも神様に心を開いてみて！これから毎晩祈ってみよう。神様がどのように、いつ答えて下さるのか、チェックしてみよ。その時、あなたは神様が生きているのかどうか確認してみてね。”

妻にこれほどの信仰があれば、神様はご主人をそのままほっといてくださらないと信じます。子供の問題がありますか。原則は同じです。一人で祈らないで子供と一緒に祈ってみて下さい。

“何々ちゃん。何々君。ママがみるにはあなたは神様が助けなければならないと思うけど、ママと一緒に祈らない？”共に祈ろうと心からの親の提案に拒む子供がいるのでしょうか。そのように家庭から心を合わせた祈りをしてみてください。神様がどのように答えて下さるかが楽しみではありませんか。子供がどんなに小さくても、大人になっていても祈ることには妨げにはならないと思えます。

愛する信仰の家族のみなさん！心を合わせた祈りはすばらしい御業を起こします。祈りの答えではなく、120人のイエス様の弟子たちのように心が一つにされる祝福もともに味わうことができるのです。我々の家族が一つになり、主の教会が一つになる一番の力とともに祈るときこそ可能になります。イエス様が天に上げられ、取り残された弟子たちは中断しないで、答えをいただくまで、聖書の約束とともに心を合わせて祈りました。我々もこのように祈ればかならず勝利を味わえます。もっと一つとなることが出来ます。かならず聖書の神様の御言葉を握って、ともに祈ることによって自分の人生と、家庭と主の教会に主からの約束が成就され、一つとなる祈りの祝福を経験するクリスチャンプレイズチャーチの全信仰の家族のみなさんとなりますよう主イエス様の御名によって祝福します。アーメン！！